

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に密着した「普通科」校ならではの特色を生かし、「知」「徳」「体」の育成を図り、生徒が「藤高（ふじたか）」生のプライドを持ち行動する学校

- 1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、生徒一人一人の希望を叶える進路を実現する
- 2 学校行事や部活動等を通して、生徒の主体性、創造性を育成するとともに、公共心を養う
- 3 「地域連携」を核に、地域に根ざした「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携も進める
- 4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、「入学してよかったと言える学校」を、より確かなものとする

2 中期的目標

1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、希望を叶える進路の実現

(1) 希望の進路の実現に向け、教員の指導力を向上するとともに、生徒が主体的に授業に取り組む教育活動を推進する。

ア 「普通科」における教科横断の授業研究を進めるとともに、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を行い、生徒の学力の向上を図る。

イ 授業における ICT の効果的な活用を進め、視覚化、情報活用による教育効果をさらに高める。

※ 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（平成 29 年度 77.1%）を、平成 31 年度には、80%にする。

(2) 3年間を通じて進路指導計画・課外講習の充実を図り、希望の進路を実現させる。

ア 1年次から進路に合わせた授業や進学講習を実施することで、早期の目標設定につなげる。

イ 進路決定まで、学年進行に合わせて、多様な希望に応える個別の指導を幅広く展開する。

ウ 大学等との連携や補習、自習室活用の拡充により、難関大学の進学実績を向上させる。

※ 国公立・難関私立大学の合格者数を、平成 29 年度 17 人を、平成 30 年度には 25 人に、それに準じる有名私立大学合格者数、平成 29 年度 38 人を平成 31 年度には 50 人に近づける。

2 学校行事や部活動を通して、生徒の主体性、創造性を育成するとともに、公共心を養う

(1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」を通して、生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力を育む。

ア 体育的行事において、生徒会部を中心に組織の企画・運営の力を育むとともに、リーダーとなる生徒を養成する。

イ 文化的行事において、生徒の「企画する力」、「協働する態度」、「責任感」を育む。

ウ 「部活動」の活性化により、学校生活をより充実したものにし、その活動を通して、公共心を育む。

エ 「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」を完全実施するとともに、年間を通して、生徒・教職員の負担軽減を図る。

※ 生徒向け学校教育自己診断における生徒会行事、部活動に対する生徒満足度、平成 29 年度における満足度「文化祭・体育祭」90.0%、「生徒会活動」84.2%、「部活動」86.4%を、平成 31 年度には、90%に近づける。

3 「地域連携」を核に、地域に根ざした「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携も進める

(1) 支援学校との交流を促進し、インクルーシブ教育システムについて理解を深める。

ア 藤井寺支援学校との交流活動を充実させ、生徒及び教職員がインクルーシブ教育システムについて理解し、活動に生かす。

(2) 「地域連携」を核に、生徒が主体的に取り組む交流活動を拡充する。「地域とともにある、進学したい学校 No. 1」をより確かなものとする。

ア 地域活動（新春セミナー・藤彩展・市民講座・校外清掃・地域の催しへの参加、地元小・中学校や幼・保育園との連携活動）の拡充を図り、地域と密着した、「チーム藤高（ふじたか）」を発展させる。

イ PTA、同窓会の協力の下、海外研修の継続・充実を図り、藤井寺市海外交流委員会と連携した短期留学生の受け入れ交流も充実させる。

(3) 「藤高（ふじたか）」の良さを知り、実感できる広報活動を展開する。

ア HP、藤高メルマガのさらなる充実を図り、情報発信を強化する。

イ 「体験入学」、「学校説明会」について、生徒が主体となった運営を継続し、「藤高（ふじたか）」の良さを、さらにわかりやすく伝えていく。

4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、「入学してよかったと言える学校」を、より確かなものとする

(1) 生徒の規範意識の向上、保護者や関係機関との連携による教育相談体制の充実を図る。

ア 「互いに違いを認め合い、ともに学びともに生きる」ことを育むために、一人一人の生徒支援の充実を図る。

イ 98%の生徒が利用している自転車のマナー向上と交通安全指導の徹底を図る。

(2) 「入学してよかったと言える学校」を将来に渡って継続していくために、本校の将来展望を検討する。

ア 「藤高向上促進委員会」、「初任期育成チーム：ひよたま」を中心に、生徒数減の将来に向けた展望を、具体的に検討していく。

(3) 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化と防災教育の充実を図る。

ア 大規模災害の発生に対応できる防災体制を強化する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
【全般の特徴】 約 8 割の項目において肯定的回答率が前年度を上回った。また、全 21 項目中 17 項目において肯定的回答率が 7 割を超えており一般的な満足度は高いといえる。逆に、学校の施設・設備面に対する不満は、前年度より 7 ポイント増加しており、今年度の災害の	第 1 回(H30.7.2 開催) 第 2 回(H30.10.24 開催) 第 3 回(H31.2.19 開催) ○第 1 回 ・学校周辺通学路の安全（藤高生、地域住民、小学生が安心できる）確保について ・2 学年の授業外勉強時間が少ない（学校基本調査について） ○第 2 回

府立藤井寺高等学校

<p>影響を差し引いても今後改善すべき項目である。</p> <p>【学習指導】 授業に対する全般的な満足度は78%と高評価である。しかし、細目を検証すると、パソコン等の活用や成績評価に関する評価が極めて高い(80%以上)のに対し、授業のわかりやすさ自体は、さらなる改善が必要な結果(68%)である。</p> <p>【生徒(進路)指導】 生活指導は適切に行われ(78%)、進路に関する指導も適切である(81%)という結果から、指導について生徒から信頼を得ている。</p> <p>【その他】 「学校に行くのが楽しい」(84%)や「今のクラスに友達がいる」(96%)という結果は、安全で安心な学校が実現できている証拠であり、この状況が維持できるよう取り組んでいく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見学した授業について 班ごと(男女混合)にしっかり取り組んでいた。(家庭・調理実習) 歯切れがよくリズム感のある良い授業であった。(現代文) 安心感があり、生徒から信頼されているのがわかる(数学) 全体的に落ち着いた雰囲気の中で授業に取り組んでいた 穏やかな表情で授業に取り組んでいた 周囲の生徒同士で教えあいをしたりしている姿が印象的であった(数学) ・地域清掃(クリーンアップキャンペーン)について 300名以上の藤高生が一斉に地域清掃をしていることを地域住民に周知する <p>○第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的探究の時間への取り組みは良いが、教員の負担増にならないような配慮が必要。業務の合理化を図るなどしなければ、勤務時間の短縮は困難。 ・学校外の外部チームでの活動が活発化しているため、いわゆる学校での部活動を維持する力が落ちているのかもしれない。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 現	<p>(1) 希望の進路の実現に向けた、教員の指導力の向上、生徒が主体的に授業に取り組む工夫 ア 「主体的に学ぶ力」の向上、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善 イ 授業における効果的なICT活用</p> <p>(2) 3年間を見通した進路指導計画・課外講習の充実 ア 1年次からの少人数授業・進学講習の充実 イ 多様な進路への対応 ウ 自習室活用の拡充</p>	<p>(1) ア 「主体的に学ぶ力」の育成のために、事前学習となる「予習・復習」のために、スタディサプリ活用の拡大と充実を図るとともに、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について、各教科で実践内容や方法を検討していく。 イ プロジェクタやPCを効果的に活用した授業を展開することで、学力向上につなげる。</p> <p>(2) ア 1年次からの進路意識の定着、2年次からの看護・医療系を中心とした講習の充実を図ることで、学習への意欲を向上させる。 イ 多様な進路に対応するため、情報収集、伝達を充実し、幅広い個別の指導を展開する。 ウ 日々の補習、自習室の活用を促進する。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度(平成29年度77.1%)を維持し、80%に近づける。 イ 同自己診断による「教材やコンピュータ、プロジェクタなどで工夫された授業がある。」(平成29年度84.0%)を維持し、85%に近づける。</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」(平成29年度72.7%)を維持し、75%に近づける。 イ 同自己診断における「進路や職業について適切な指導を受けられる。」(平成29年度79.1%)を維持し、80%に近づける。 ウ 自習室での活用を促進することで、国公立・難関私立大学合格者数を、平成29年度17人を、平成30年度には20人に、それに準じる有名私立大学合格者数、平成29年度38人を、平成30年度には45人に近づける。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度は、78.9%と前年度(77.1%)を上回り、目標値(80%)に近づいた。 【評価 ○】 イ 同自己診断による「教材やコンピュータ、プロジェクタなどで工夫された授業がある。」の肯定的回答率は、87.9%と、前年度(84.0%)を大幅に上回り、目標値(80%)を超えた。 【評価 ◎】</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」の肯定的回答率は、76.7%と前年度(72.7%)を大幅に上回り、目標値(75%)を超えた。 【評価 ◎】 イ 同自己診断における「進路や職業について適切な指導を受けられる。」の肯定的回答率は、81.8%と、前年度(79.1%)を大幅に上回り、目標値(80%)を超えた。 【評価 ◎】 ウ 国公立・難関私立大学の合格者数は、難関私立大18人(国立大学1名含む)、それに準じる有名私立大学合格者数43人と、いずれも目標値に近づいている。 *【評価 ○】</p>
2 に、公共心を養う	<p>(1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」を通して、生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力の育成 ア 体育的行事において、生徒会部を中心に組織を企画・運営する生徒の力の育成、及び生徒リーダーの養成 イ 文化的行事において、生徒の「企画する力」、「協働する態度」、「責任感」の育成 ウ 「部活動」の活性化と、公共心の育成 エ 「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」の完全実施、部活動の効率化</p>	<p>(1) ア 体育的行事において、生徒会部と3学年団が連携し、生徒のリーダー集団を育成する。そのリーダー集団に、企画から1、2年を巻き込んだ組織運営に取り組ませる。 イ 文化的行事において、生徒会を中心にクラス単位での企画・運営の中で、クラスの協力体制や責任感の大切さを理解させる。 ウ 新入生に向けて、入部の促進を図り、加入率の向上を図る。また、各活動を通して、ルールやマナーを順守する態度を育成していく。 エ 「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」を完全実施するとともに、部活動の効率化を図っていく。</p>	<p>(1) ア イ 生徒向け学校教育自己診断における「フェス体・フェス文等の行事は楽しい。」の肯定的回答率は、91.2%と前年度(90.0%)を超え、目標値(95%)に近づいた。 【評価 ○】 また、同自己診断による「新入生歓迎会や学校説明会、各行事において生徒会はよく活動している。」の肯定的回答率は、90.2%と前年度(84.2%)を大幅に上回り、目標値(85%)を完全に超えた。 【評価 ◎】 ウ 新入生の部活動加入率は7割にとどまり(目標8割)、同自己診断による「本校は、部活動が盛んである。」の肯定的回答率は、86.4%と前年度と同じであった。 【評価 △】 エ 「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」および「学校休業日」は100%実施した。 【評価 ○】</p>	

府立藤井寺高等学校

<p>3 「地域連携」を核に、海外の学校や外部機関との連携も進める</p>	<p>(1) 支援学校との連携を通して、インクルーシブ教育システムの理解と実践 ア 藤井寺支援学校との交流活動の拡充、インクルーシブ教育システムの構築の理解と実践</p> <p>(2) 「地域連携」を核に、生徒が主体的に取り組む交流活動の充実 「地域とともにある、進学したい学校 No. 1」 ア 地域活動の拡充、地域と密着した「地域とともにある学校」の継続 イ 海外研修の継続・充実</p> <p>(3) 「藤高（ふじたか）」の良さを知り、実感できる広報活動の充実 ア HP、藤高メルマガのさらなる充実 イ 生徒が主体の「体験入学」、「学校説明会」のさらなる充実</p>	<p>(1) ア 藤井寺支援学校との年間を通じた交流活動を充実させ、その広報活動を行う。同時に、インクルーシブ教育システムの構築について理解を深め、実践に生かす。また、年間を通じて「人権教育」を推進し、理解を深める。</p> <p>(2) ア 地域活動（新春セミナー・藤彩展・市民講座・校外清掃・地域の催しへの参加、地元小・中学校や幼・保育園との連携活動）の拡充を図る。特に、藤井寺市立北小学校への「放課後学習支援」と「授業研究」の連携を通じて、児童・生徒、教員間の交流を行う。 イ ニュージーランドへの海外研修の継続と内容の充実を図るとともに、本校との交流活動の充実を図る。</p> <p>(3) ア HPの改善を進める。「求められる情報」のタイムリーな更新を続けていく。 イ 「体験入学」、「学校説明会」について、さらにICTを活用し、「藤高（ふじたか）」の良さをわかりやすく伝えていく。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや人権について学ぶ機会がある。」（平成29年度83.0%）を維持し、85%に近づける。</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断による「PTAや地域、近隣の学校（支援学校や北小）との交流をしている。」（平成29年度81.0%）を維持し、85%に近づける。 イ 同自己診断による「本校は国際交流活動に力を入れている。」（平成29年度78.4%）を、80%に近づける。保護者向け学校教育同自己診断による「学校は国際交流活動に力を入れている。」（平成29年度74.6%）を、80%に近づける。</p> <p>(3) ア イ 保護者向け学校教育同自己診断による「学校の教育方針や教育情報はわかりやすく伝わっている。」（平成29年度66.1%）を、70%にする。「学校のホームページやメールサービスを利用したことがある。」（平成29年60.8%）を、65%にする。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや人権について学ぶ機会がある。」の肯定的回答率は84.9%と、前年度(83.0%)を上回り、目標値(85%)に近づいた。【評価 ○】</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断による「PTAや地域、近隣の学校（支援学校や北小）との交流をしている。」の肯定的回答率は81.2%で、前年度(81.0%)を上回った。【評価 ○】 イ 同自己診断による「本校は国際交流活動に力を入れている。」の肯定的回答率は、89.2%と前年度(78.4%)を大幅に上回り、目標値(80%)をはるかに超えた。また、保護者向け学校教育同自己診断による「学校は国際交流活動に力を入れている。」の肯定的回答率も84.3%と前年度(74.6%)を大幅に上回り、目標値(80%)をはるかに超えた。【評価 ◎】</p> <p>(3) ア イ 保護者向け学校教育同自己診断による「学校の教育方針教育情報はわかりやすく伝わっている。」の肯定的回答率は、68.0%と前年度(66.1%)を上回ったが、目標値には達しなかった。また、「学校のホームページやメールサービスを利用したことがある。」の肯定的回答率は、65.3%と前年度(60.8%)を大幅に上回り、目標値(65%)を超えた。【評価 △】</p>
<p>4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、「入学してよかったと言える学校」を、より確かなものとする</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の向上、保護者や関係機関との連携による教育相談体制の充実 ア 一人一人の生徒支援の充実 イ 自転車マナーの向上と交通安全指導の徹底</p> <p>(2) 「入学してよかったと言える学校」の継続 ア 「藤高」の将来に向けた展望の検討</p> <p>(3) 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化 防災教育の充実 ア 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化</p>	<p>(1) ア 本校の教育目標である「互いに違いを認め合い、ともに学びともに生きる」ことを育むために、「教育相談」体制の充実を図るとともに、各学年と部活動の連携、保護者との連携を深め、生徒支援体制の充実を図る。 イ 生徒の98%が通学手段として、自転車を利用しているため、地域や警察と連携し、交通安全指導の徹底を図る。</p> <p>(2) ア 生徒数減の将来においても、「入学してよかったと言える学校」を継続していくために、「藤高向上促進委員会」、「初任期育成チーム：ひよたま」を中心に、近い将来への具体的方策を検討していく。</p> <p>(3) ア 大規模災害に備え、藤井寺市危機管理室と連携しながら、必要物資の調達等をさらに進めていく。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における「悩みを相談できる先生がいる。」（平成29年度52.8%）を、60%に近づける。保護者向け学校教育自己診断による「子どもが悩みを相談できる先生がいる。」（平成29年度56.4%）を、60%に近づける。 イ 生徒向け学校教育自己診断における「学校での生活について、先生の指導は適切である。」（平成29年度75.9%）を維持し、80%に近づける。</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における「学校に行くのは楽しい。」（平成29年度80.0%）を維持し、85%に近づける。</p> <p>(3) ア 災害発生後に必要な備品の調達を進める。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における「悩みを相談できる先生がいる。」の肯定的回答率は、58.9%と前年度(52.8%)を大幅に上回った。また、保護者向け学校教育自己診断による「子どもが悩みを相談できる先生がいる。」の肯定的回答率は、56.6%と前年度(56.4%)を上回った。【評価 ○】 イ 生徒向け学校教育自己診断における「学校での生活について、先生の指導は適切である。」の肯定的回答率は、78.5%と前年度(75.9%)を上回った。【評価 ○】</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における「学校に行くのは楽しい。」の肯定的回答率は、84.6%と前年度(80.0%)を上回った。【評価 ○】</p> <p>(3) ア 大阪府、藤井寺市とも協議し、災害発生後に必要な備品の調達を進めているところである。【評価 ○】</p>